

第3回総会・フォーラム&フットパス in くろまつない 実施報告

(日本フットパス協会事務局より)



第3回総会・フォーラム開催！

日本フットパス協会の第3回総会・フォーラムが10月16日(土)に、翌日17日(日)には、歌才ぶな林のフットパスを総勢100名の参加者でウォークを楽しみました。以下が2日間の一連の流れです。



(今回会場となった歌才自然の家)

理事会・総会、新規団体会員紹介

16日は、14時から14時30分までが理事会、14時30分から16時までが総会。熊本県の美里NPOホールディングス、北海道の(株)阿寒町観光振興公社、及び東京都多摩市の歴史古街道団の3団体が、新規団体会員となりました。これで、自治体5団体、一般12団体と総勢17団体となりました。

また、21年度収支決算と監査報告が承認され、平成22年度予算案も承認されました。

ブナ林に隠されたロマン

16時20分からは、三上勝由氏による「北の賛歌 in 黒松内」の語り。北大の新島善直博士がこのブナ林の価値を見出し、何度かの危機を乗り越えて保存された…と現在に至った歴史を、説得ある語りと叙情あふれる松沢幸司氏のフルートとオカリナの音色で、参加者に感動を与えてくれました。



(ドラマに富むブナ林の歴史)

通訳の視点からフットパスを徹底分析

17時からは、「通訳家から見たフットパス事情」の題目で、小田高史氏による講演。イギリスのフットパス事情を映像を使いながら詳細に説明されました。Eden Project、南西沿岸のナショナル・トレイル、BedZEDの環境型共同住宅、レストラン Acorn House、田園都市レッチワース、コッツウォルズなど、フットパスだけでなく、イギリスの環境・自然への最近の取り組みを紹介してくださいました。

フットパス討論

その後18時からは、神谷由紀子氏、中村正樹氏、新川幸夫氏、室瀬秋宏氏の4人のパネリスト、コーディネーター小川巖氏によるパネル討論。フットパスを楽しむ要素として、自然を楽しむ、食事、お酒、人との語りなどがそれぞれから事例豊富に紹介されました。



(パネル討論の様子)

懇親会での親睦

フォーラムはこれで終わり、19時からは、大型ビニールハウスの中での交流会。地元の野菜、お肉など地の香りいっぱいの食事に、参加者の会話は弾んでいきます。

クイズのアトラクションもあり、2時間の懇親会は、楽しい談笑の内に終わりを迎えました。



(交流でこぼれる笑顔)

待望のブナ林フットパス

翌日17日はいよいよブナ林のフットパスウォーク。参加者は約100名。出発前には、ルートから外れて自然を傷めないようになどの注意があり、班に分かれスタート。秋の深まりを感じつつ、8kmのコースを、ブナ林の北限という臨場感を感じながらのウォークは、それだけで価値のあるウォークでありました。



(ウォーク前に士気が高まる)

2日間を振り返り…

このように2日間の総会は感激の内に、解散式と共に幕を下ろしました。黒松内町と主催・協力団体あがでの準備とホスピタリティーに、心より感謝いたします。



(立派なブナの木は圧巻)



(歌オブナ林の説明板も)